A) 令和6年(2024年)2月 房総半島の非定常地殻変動

出典 2024年3月15日 国土地理院 発表

房総半島の電子基準点観測データに、2024年2月26日頃から、通常とは異なる地殻変動(非定 常地殻変動)が検出されています。これまでに検出された非定常地殻変動は大きいところで約2cm で す。

この変動は、房総半島沖のフィリピン海プレートと陸側のプレートの境界面で発生している「ゆっくり すべり(スロースリップ)現象」によるものと推定されます。

3月6日までのデータを用いた非定常地殻変動からプレート境界面上のすべりを計算したところ、房 総半島沖で最大約 12cm のすべりが推定されました。

今回得られた解析結果はあくまでも暫定的なものであり、今後のデータの蓄積、精査により、情報が 更新される可能性があります。

国土地理院では、引き続き、この非定常地殻変動を注意深く監視していくこととしています。



推定すべり分布 (2024-02-04/2024-03-06)

100 km

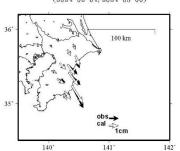
Mw6.6

35

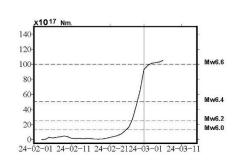
最大すべり 童:12位

20 cm

観測値(黒)と計算値(白)の比較 (2024-02-04/2024-03-06)



モーメント* 時系列(試算)



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載。 及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示す。 推定したすべり量が標準偏差(σ)の3倍以上のグリッドを黒色で表示している。

141°

使用データ:GEONETによる日々の座標値(F5解、R5解、Q5解)

F5解(2023-09-01/2024-02-17) +R5解(2024-02-18/2024-03-05)+Q5解(2024-03-06) *電子基準点の保守等による変動は補正している。 トレンド期間:2020-01-01/2022-01-01 (年周・半年周成分は補正なし)

.5cm

モーメント計算範囲:黒枠内

観測値:カルマンフィルターで平滑化した値

黒破線:フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al.,2008)

すべり方向:プレートの沈み込み方向に拘束

青丸:気象庁一元化震源(深さ:0-40km) (期間:2024-02-24/2024-03-03)

固定局:八鄉

*共通誤差を推定している

*令和6年能登半島地震に伴う地殻変動は補正している。

*モーメント:断層運動のエネルギーの目安となる量。